(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	“生きるを一緒に”その人の願いを叶えるために 介護職ができること、すべきこと
演者名	山口とよ子
所属	上伊那医療生活協同組合

はじめに

法人倫理委員会の”物語られるいのち～その人らしく生きる～”を発信源として、患者・利用者ひとり一人が生命の輝きを放ち望みを叶えるために、その方に寄り添い支え、ともに生きるスタンスで取り組んでいる。介護職員も、他職種連携や個別ケア・尊厳支えるケアを学びつつ、“生きるを一緒に”の介護実践を深めている。

目的

“生きるを一緒に”その人の願いを叶えるために介護職ができること、すべきことの確証と共有
実践内容 介護部会の理念 上伊那介護かきくけこ5K ～感謝・気付き・工夫・健康・志高く～
政策 1、“物語られるいのち”の介護実践

2、“いのちの平等”の介護実践

3、事例にこだわる 一人一症例(研究)の実践

実践効果

- ①ヘルパーステーション(在宅チーム)でのその人らしい生活を支えるケア
- ②利用者・家族が望んだ形でのグループホームでの看取り
- ③ 小規模多機能型居宅介護における終末期利用者の思いの実現
- ④ 老人保健施設での在宅復帰のための家族指導
- ⑤ 一般病棟におけるターミナル期の患者への精神的フォロー
- ⑥ 宅老所における役割の確立＝得意を活かす
- ⑦ 行政との連携で生活保護世帯の方へのフォロー
- ⑧ 介護職学術運動交流集会(政策3の報告・交流)

おわりに

医学の進歩とともに、病に罹ったり障がいを持ったりすると、生活者の視点より”病人””障がい者“という側面と呼ばれ、その人の生活から医療だけが切り離されたかのように、違和感を覚えることが少なくない。しかし、人が生きて終りを迎えるまでのことを考えれば、病気や介護を必要とすることは、生活(人生)全般の中での一部であり一時である。その一時に関わる我々は、その人の今までの人生と今とこれからに真摯に向き合い、その人自身がこれからに何を望むか、その実現のために何ができるか・すべきかを常に考え・捉え・ともに生きるスタンスで関わっていくことが重要であることの確信を得た。更に実践を深めていきたい。